

公益財団法人 愛知県サッカー協会

所属審判員の皆様

## 2016年シーズンを迎えるにあたって

公益財団法人 愛知県サッカー協会

審判委員会 委員長 宮下幸吉

### 【はじめに】

このたび、審判委員長を拝命いたしました宮下幸吉でございます。微力な私が、委員長という大役を引き受けさせていただくこととなりました。大きな不安はございますが、精一杯、力を尽くさせていただきますので、皆様方のご支援、ご協力を賜りますよう、お願いいたします。



本県の審判委員会は、充実した組織を誇り、トップレフェリーも多く輩出しています。これも、歴代委員長の努力の賜物です。とりわけ、私が現役時代からお世話になりました、林則治氏、平岡道郎氏、岡田秀美氏の功績は絶大で、審判委員会の土台を築かれました。この土台の上に、少しでも上積みができるように努力してまいります。

さて、JFAは、この数年、日本のサッカーが、“フェアで、スピーディーに、そして、タフに”展開することを願い、様々な施策を実現させてきました。技術委員会と審判委員会の協働はその一例であり、育成年代を中心にその成果が現れています。

本県では、今年度、『AIFA レフェリーアカデミー』を創設することになりました。これまで個別に実施してきた審判員の育成や強化に関わる研修を体系化し、その指導に継続性と一貫性をもたせることを主旨としています。また、審判指導者に対して、最新の正確な情報を提供することで、審判員指導の一貫性と統一性を維持することもねらいとしています。

審判員と審判指導者は、新たに整備された研修の機会を活用して、本県のサッカーのさらなる発展に寄与することを期待します。

## 【日本のめざすサッカー】

日本のサッカーが、フェアでスピーディーに、そして、タフにプレーされ、多くの人が感動を得られるようにする。

近年、世界のサッカーは大きく進歩しています。どの国でも、試合環境が整えられ、個々の技術が大きく進展しています。また、チーム戦術にも大きな変化が見られます。こうした中、世界におくれを取らないためにも、日本のサッカー界が一丸となって **Intensity** (強さ・激しさ) と **Quality** (質) の向上をめざす必要があります。具体的には、試合の中での“デュエル”を向上させ、品位をおとしめる行為を抑止していくことです。

審判員は、これらの課題を念頭において、担当する試合をコントロールする必要があります。日本サッカー界の発展のために、審判員として、あるいは、審判指導者としてすべきことを理解し、その実現に邁進してください。



## 【AIFA 審判員への要求】

一貫性と統一感をもったゲームコントロールを実現する。

本県のサッカーも、この数年、確実に進化を遂げています。各カテゴリーでリーグ戦が実施され、試合環境が整備されてきました。また、選手の育成、強化でも、様々な取り組みがなされ、優秀な選手を数多く輩出しています。

こうした中、審判員に対しては、一貫性と統一感をもったゲームコントロールが強く求められています。各試合における判定基準の一貫性はもとより、各カテゴリー、各リーグ、各トーナメントでの一貫性や統一感も要求されています。選手が試合に集中し、その技量を遺憾なく発揮するためには、審判員の適切なゲームコントロールが不可欠です。

そこで、今年度は、以下の点を審判員の皆さんに求めます。

- ① 事象を正確に見極めて、適切に対応すること。
- ② 競技規則やその精神を深く理解した上で、正しく適用すること。
- ③ 運動量を確保し、試合展開に適合した位置取りを工夫すること。

## 【今年度の目標】

### ① 事象の正確な見極めと適切な対応

サッカーは、世界で最も人気のあるスポーツのひとつです。一つのボールを二つのチームの選手が奪い合いながらゴール数を競う、とても明快なスポーツです。また、手や腕の使用が、相当、制限されているため、不確定な要素を含む競技になっています。こうした競技の特性から、競技者間の身体接触は、ある程度、容認されています。

審判員には、競技中に起こる身体接触がサッカーの競技で認められているものなのか、あるいは、ファウルとして罰せられるものであるのかを判断し、判定することが求められます。そして、その判断、判定には、一貫性や統一感が必要です。審判員は、事象を的確に見極めて、ファウルであるのか否かの判断を瞬時に下す必要があります。時には、懲戒の罰則が必要となる事象も発生します。こうしたときにも、競技規則に基づいた適切な対応が求められます。

また、身体接触がない場面でも反則は起こります。選手の行為は、サッカーの競技で認められているものか否かを判断し、判定することも審判員の重要な役割です。

試合中に起こる様々な事象を正確に見極め、判断し、適切に対応していきましょう。今年度は、特に、以下の事柄に対して、判定の精度を上げていくことを期待しています。



- 足元のコンタクトプレーを正しく見極める。
- 身体のコンタクトプレーを正しく見極める。
- 手や腕の不正な使用を見極め、正しく対応する。
- オフサイドの反則を正しく判断する。
- △ アドバンテージを適切に適用し、選手のタフなプレーを引き出す。

### ② 競技規則やその精神の深くて正しい理解

全てのスポーツのルールは、参加する者に対して公平でなくてはなりません。また、どこで誰が競技する場合であっても、同一の内容でないと、混乱を招きます。さらに、サッカーは、身体接触が伴うスポーツであるが故、相手競技者の安全に対する配慮が求められます。世界各地で、多くの人々がサッカーに参

加し、また、観戦して楽しむことができるのは、こうした競技規則の精神が具現化されているためではないでしょうか。

私たちは、サッカーの競技規則に精通しているのはもちろんのこと、その根底にある精神についても深く理解する必要があります。競技規則は不変でなく、時代の要請により刻々と変化しています。私たちには、競技規則に関する正しくて深い理解が求められています。

競技規則の精神を深く正しく理解し、フェアに、そしてタフに試合が展開されれば、それは、多くの人に感動を与えます。競技規則は、審判員だけに試合をコントロールする権限を与えています。私たちは、この職責に謙虚に向き合う必要があります。



今年度は、以下の点について理解を深め、適切な対応を求めます。

- 主審の判定に対する異議に適切に対応する。
- 遅延行為を撲滅する。
- 決定的な得点の機会を阻止する行為に対して、適切に対応する。
- △ 選手間の対立を予防し、発生時には適切に対処する。
- △ シミュレーションを見極め、適切に対処する。
- △ ゴールキーパーのボール保持に対して注意を払う。

### ③ 運動量の確保

この数年、どのカテゴリーの試合においても、攻守の切り替えが素早くなっています。スピード感に溢れ、フェアで、タフなフィジカルチャレンジも多く見られるようになりました。それは、審判員にとって、難しい判断が要求される場面も多くなっていることを意味します。そうした場面に遭遇しても、審判員としての判断や判定に説得力をもたせることが大切です。

説得力をもたせるためのひとつの要素は、動きやポジショニングです。事象から 15m程度の位置を保ち、そこから監視、判断をしていれば、競技者やチーム役員にとっては安心材料となります。特に、ペナルティーエリア内やその周辺部分での審判員の判定は、試合の結果を左右する可能性をもっています。判定精度の向上に加えて、適切な位置で事象を監視し、判定することを心がけて

下さい。

審判員の任務は多岐にわたり、さらに、競技規則を施行する一切の権限をもっています。この任務を遂行するためにも、運動量の確保は不可欠です。日頃から体力の維持と増進を図り、割り当てられた試合に万全の状態での臨むことを期待しています。

## 【おわりに】

チーム役員、選手、審判員は、互いをリスペクトし、また、サポーターを含む全てのサッカー関係者にもリスペクトの輪を広げていくことを期待します。それが、本県のサッカーをより発展させ、サッカー文化を定着させることに繋がります。

わたしたち、審判員、審判指導者は、常に向上心を持ち続け、前向きに挑戦する必要があります。それぞれの試合前には、今年度の目標を確認し、万全の準備を整えることを期待します。

